

歴史秘話ヒストリア あざやかなり首里城

放送日：2020年8月26日 放送時間：45分



対象校種 小学校高学年 中学校

対象教科 社会科 総合的な学習の時間

この番組の良さ



● 琉球王国の象徴「首里城」

2019年、沖縄県首里城の主要な建物が焼失し、県内外に大きな悲しみをもたらした。首里城は450年もの歴史を誇り、アジアの交易の拠点として繁栄を極めた「琉球王国」の象徴的な城でした。番組では、琉球王朝時代、独自で華やかな琉球文化の礎となり、明治維新や太平洋戦争などの苦難の中で沖縄を間近で見つめた首里城を通して、琉球王国や沖縄の歴史を知ることができます。

● 貿易立国琉球王国の栄華

首里城は、荘厳なたたずまいに朱塗りのあざやかな色彩、美しい装飾が施され、琉球王国時代の美が結集されていました。また、多角形の石垣や多数の櫓形を備えた非常に堅固な城であり、江戸城より200年も早く高度な城を築いています。番組では、琉球王国が中国(明)との交流を通して、アジア最先端の石垣の技術を取り入れる様子や、中継貿易により日本やアジアと深く結び付き、繁栄する様子を知ることができます。

番組活用のポイント

● 「琉球王国」の国際的な役割や独自の文化を学ぶ教材として

歴史秘話ヒストリアは、歴史上の人物などであまり知られていなかった部分にスポットを当てて紹介し、歴史上の人物の心境や決断などが詳しく解説される歴史情報番組です。本番組は、2019年に主要な建物が焼失した首里城火災の翌年に公開されています。

中学校社会科での琉球王国の取り扱いについては、学習指導要領において日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解することになっています。また、「解説編」では琉球の国際的な役割について、琉球が日本、明や朝鮮、更には東南アジア諸国との中継貿易に従事したことに気付くことや、「琉球の文化」についてアジアとの交流の中で育まれた琉球の独自の文化について触れることを求めています。しかし、琉球王国や琉球王朝時代については、一般的にはあまり知る機会がないのも事実です。番組を活用することで、琉球王国の成立の過程や中国(明)が海禁政策を取る中、万国津梁(国々の架け橋となる)を唱えて貿易立国として明とアジアや日本を結ぶ中継貿易を行い発展する様子を知ることができます。

● 独自の文化が発展した理由とは

琉球は空手や琉球舞踊などの独自の文化を有しています。特に琉球舞踊の中でも「古典舞踊」は、琉球王国時代に中国からの使者(冊封使)を歓待する舞台上で踊られたことを機に発展し、18世紀に大成しました。番組では、1609年の薩摩侵入以降、薩摩に併合されないために琉球の独自文化を主張し、琉球の独立を印象づけたことや、日本との接近に反発した中国(明)に対しても、「組踊」という新しい芸能を披露するなど、「ソフトパワー戦略」により、日中の間を渡り歩く様子が分かります。アジアとの交流の中で育まれた琉球の独自の文化について学ぶ良いきっかけとなるでしょう。



執筆者

西原町教育委員会

指導主事

甲斐 崇

琉球王国はどのようにして栄えたのだろう？ 首里城を中心とした政治と文化について考える。

対象校種 中学校 対象教科 社会科

【授業時間 50分】 部分視聴

児童生徒の思考と活動の流れ	教師の支援と評価
<div style="text-align: center;"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・首里城について既存の知識を聞く。 ・開始から2:00までを部分視聴し、沖縄には「琉球王国」が存在していたことを確認する。 ・視聴をもとに首里城や琉球王国についての疑問を話し合う。 ・疑問を整理し、学習課題とする。琉球王国として成立し、独自の文化をもとに発展したことに焦点化する。 ・課題意識をもって番組を視聴できるよう、琉球王国が反映した様子までの視聴とする。 ・番組視聴後、琉球王国の成立や首里城、中継貿易による交易、独自の文化が生まれたこと等、首里城を中心として、ポイントになるキーワードを各自でノートに整理し、グループで話し合う。 ・話し合ったことを発表しあい、意見をまとめる。 ・文化の力(ソフトパワー)の発信拠点が首里城であったことを押さえたい。 <p>【知識・技能】 琉球の国際的役割を基に、東南アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを踏まえて、新たな疑問等を確認し、課題設定や学習意欲につなげたい。